

<BPSDのある人への支援を考えてみましょう>

BPSDには、不安・抑うつ・妄想・幻覚などの精神症状と、ひとり歩き・不潔行為・収集・暴言暴力などの行動症状があります。

アルツハイマー型認知症

今できることに目を向け
失望感を味あわせないように

対応

- 「できること」「できないこと」を把握し、「できること」を中心にアプローチ
- 手続き記憶の活用（包丁・大工道具）…長年の仕事や習慣も手続き記憶になり得る
- 転倒予防
- 被害妄想への対応
- つじつま合わせや言葉かけに注意

血管性認知症

本人のペースで
できることを見つける

対応

- 脳梗塞、脳出血の再発の予防
- 血圧のコントロール
- 脱水予防
- 嚥下障害による誤嚥性肺炎の予防
- コミュニケーション

レビー小体型認知症

静かに・ゆっくり
個別対応

対応

- 日内変動の把握～症状の変化
- 症状が安定している時のアプローチ
- 誤嚥、転倒事故予防（パーキンソン症状）
- 幻視・幻聴・妄想への対応

前頭側頭型認知症

抑制のきかない行動や
社会的ルールを無視した行動

対応

- 外出を妨げない
- こだわりの尊重
- コミュニケーションの工夫
- 行動のパターン化（行動が予測しやすい）

～ゲームや作業を行う時のちょっとした配慮と考え方～

認知症の人は、このような障害で最近までやれたことができない。
抱えている喪失感情や失望感・羞恥心などに細かく配慮し

安心して間違えられる 安心して失敗できる

環境を作るのも大切です。